

〈授業改善推進プラン 国語科 第1学年〉

1. 国語科の目指す「わかる」から「できる」授業 ・自分の考えを明確に伝えることができるようになる。 (漢字・文法・言語事項・文章の構成や展開を既習事項を用いる) ・文章の構成を捉えて読むことができる。 ・国語での学びを他教科や学校生活で活かすことができるようになる。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・意欲的に取り組む生徒が多い。 ・グループでの話し合いでは協力して行っている。 〈考査(テスト)分析〉 ・漢字や文法などの知識・理解の問題を解答することができる。 ・読み取った内容から自分の考えを述べるできていない。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・授業で必要なものの忘れ物をしていない。 ・宿題や提出物をきちんと出すことができる。 ・授業中の指示や決まりを守って授業を受けることができている。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 ・授業中に教員の話をしっかり聞いている。 ・宿題をきちんとしている。 ・覚えた漢字を使って文章を書くようにしている。 ・分からないことがあるときに先生に質問することがあまりない。 ・新聞記事を読むことがあまりない。 〈学力調査〉 ○「作文」 ・段落の構成を理解し、三段落構成で文章を書くこと。 ☆読むこと ・物語文で、登場人物の様子について、描写を基に捉えること。 ・説明文で、文章全体の構成を捉えること。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について ・文章の構成を考えて文章を書くこと。 ・自分の考えを明確にしながら文章を書くこと。 ・描写に着目して、登場人物について捉えること。 ・文章全体の構成を考えて、説明文を読むこと。	
5. 授業改善策 (1)机間指導を行い、記述に困っている生徒には解き方のヒントを伝える。 (2)読み取りの内容をまとめ、自分の考えを伝えやすくするために、ICT 機器を用いる。 (3)事実と自分の考えを明確に区別できるよう、文章の書き方を示す。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 社会科 第1学年〉

1. 社会科の目指す「わかる」から「できる」授業 ○基礎・基本の徹底 社会科で基礎・基本となる用語や、資料・地図からの読み取りなどの技能を身に付けることができる。 (例)歴史上の人名や出来事を答える。地形図を読み取る。 ○概念を理解した上で、説明したり課題を解決したり活用することができる。 基礎的な知識・技能を身に付けた上で、それらを用いて説明したり((例)扇状地に果樹園が多い理由を説明する。もし立法、行政、司法の三権が分立していなければ、どのような問題が起こるか予想する)、実際の生活と結びつけて課題解決に結びつけたり((例)歴史上の出来事について、その経緯とさまざまな立場の声を紹介し、その意味を論評する歴史新聞を作成する。ハンバーガー店の店長になったつもりで、駅前のどこに出店すべきかを考えて、企画書にまとめる)することができる。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・授業に積極的に参加する生徒が多い。特にワークシートの取組はよい。 ・社会的事象への関心に個人差がある。 〈考査(テスト)分析〉 ・時差、緯度経度、世紀の表し方など技能で、できる生徒とできない生徒が分かれてしまっている。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・社会科に対して苦手意識をもっている生徒がいる。 ・社会科の予習・復習に時間を割けていない。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 ・授業中、ワークシートにしっかりと取り組むことができている。 ・家庭での予習・復習があまり定着をしていない。 ・ニュースを見たり、社会のことで気になることを調べたりする習慣が身に付いていない。 〈学力調査〉 ○中世の歴史、近世の歴史、近代の歴史、日本の政治 ☆小学校6年生で学習した内容の定着ができていない。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について ・基礎・基本的な用語の定着 ・応用的な問題(課題)への対応 ・課題を自ら見付けること ・社会的な事象に対する興味・関心を高めること	
5. 授業改善策 (1)予習や復習の仕方を改めて指導したり、単元ごとに確認テストを行ったりして、基礎・基本的な用語が定着するようにする。 (2)授業の中で、考えたり調べたりする時間を設け、知識や技能を活用する練習を行う。 (3)ニュースや新聞のレポートを定期的に宿題にすることで、社会の出来事への興味・関心を高める。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 数学科 第1学年〉

1. 数学科の目指す「わかる」から「できる」授業 ・基本的な知識や技能を習得し、どの知識や技能を用いるか適切に選択して、自ら問題を解くことができる。 ・既習事項をもとに筋道を立てて、新たな課題を解決したり、公式を導いたりすることができる。 ・日常生活において必要な情報を選択・判断し、数学を活用して課題を解決することができる。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・授業に前向きに取り組む生徒が多い。 ・宿題や提出物に丁寧に取り組む生徒が多い ・学習意欲や習熟度の差が大きい。 〈考査(テスト)分析〉 ・基礎的な知識や技能を問う問題はできる。 ・思考力、判断力、表現力を問う問題の正答率が極端に低い。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・多くの生徒が、授業を受けることが「楽しい」と感じられると答えている。 ・理解のために予習・復習をあまり行っていない。 ・苦手意識をもつ生徒が多い。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 ・授業では、先生の話をしっかり聞いている。 ・授業では、きちんとノートをとっている。 ・宿題をきちんとしている。 ・授業のための予習をあまりしていない。 〈学力調査〉 ○「百分率」、「平面図形」 ☆「比と比例・反比例」 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について ・基本的な知識や技能の定着。 ・既習事項を活用して課題を解決すること。 ・日常生活における問題において数学を活用して解決すること。	
5. 授業改善策 (1)基本的な知識や技能の向上のため、宿題や小テスト等により反復練習を行う。 (2)根拠となる事柄を明確にして、それらを伝えられるようにする。 (3)既習事項を活用し、生徒が自ら考えて、自力で解決できるような課題を多く取り入れる。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 理科 第1学年〉

1. 理科の目指す「わかる」から「できる」授業 学習指導要領に示された「育成すべき資質・能力」の評価に対する問いについて、教科書「新しい科学」の各単元全章に設定された「Before & After」を活用する。これは、見通しを立てる「Before」と振り返る「After」と位置付けられてある。生徒の意欲を引き出し、学ぶ意味を自覚させるうえで極めて重要な役割を果たす。ノートや chrome book に記録させ、生徒の変容を比較できるようにする。なお、この問いは回答に幅をもたせているため学習前であっても、生徒は既習事項や生活経験などを通して何らかの情報や知識をもっているため、回答が可能であるという点が重要である。この学習によって、深化(変容)を生徒が自覚(自己評価)することが学びに向かう力を促進させる働きをもつ。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・授業をよく聞き、学習する意欲がとても高い。 ・観察や実験に興味、関心をもって行っている。 〈考査(テスト)分析〉 ・一問一答のような問題の解答はできるが、実験を踏まえて考え、答えを導き出す問題の解答は苦手な傾向にある。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・授業や学習内容に興味をもつことはできるが、苦手意識をもつ傾向にある。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 ・授業をしっかり聞いて、ノートを取っており、学習内容を理解しているという生徒がほとんどである。 ・宿題をやっている生徒が多い。 ・理科の授業の予習、復習をしている生徒が少ない。 ・自然科学に興味をもって本を読んだり、テレビ番組を見たりする生徒が少ない。 〈学力調査〉 ○気体の性質、水溶液の性質、状態変化、光の性質、音の性質、力の性質 ・化学と物理分野での正解率が低かった。特に気体の性質や発生方法の正解率が低かった。 ・計算を含む問題は正答率が低かった。 ☆物質の成り立ち、身のまわりの物質とその性質。 ・器具の使用方法について理解が不十分である。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について ・観察、実験といった体験や実践に対しては興味、関心をもち積極的に取り組むことができるが、そこから科学的な見方、考え方を働かせながら、知識及び技能を習得したり、思考、判断、表現したりすることに難しさを感じている。	
5. 授業改善策 ・自然の事物・現象についての理解を深めるため、日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感させる。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 音楽科 第1学年〉

1. 音楽科の目指す「わかる」から「できる」授業 (1)学習した内容が、目標とする演奏に役立つことを実感する。 (2)学んだことを活かして、表現を工夫することができる。 (3)課題を言語化することで、個人及び集団で意識を共有し、演奏の向上に役立てることができる。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・異学年交流を定期的に行ってきたことで、先輩に教わりながら技術を磨く授業の形ができつつある。 〈考査(テスト)分析〉 ・概ねよく学習に取り組んでおり、結果にも反映されていた。中学生になってから始めた吹奏楽の振り返りに関する問題では、自己の課題を具体的に捉えている生徒が多かった。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・どの活動にも一生懸命取り組む姿勢がある。楽器演奏に関して、技術的な疑問点をもつ生徒が多かった。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 実施せず 〈学力調査〉 実施せず ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について 学年で9種類の吹奏楽器を分担しているため、個々の楽器指導を個別またはグループでいかに充実させるかが課題である。読譜力は個々の音楽経験によって異なるため、生徒同士でカバーできるよう促すとともに、個別最適化の学習環境を整え、どの生徒も自分で学習を進められる環境を作ることによって課題を克服させる。	
5. 授業改善策 (1)インターネットサイトを使った読譜練習と運指練習を、自分のペースで主体的に進める。 (2)振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。 (3)自分のパート音源を個別に聴きながら練習し、楽譜を読む、楽器で音を出す、音を聴いて確かめる、の3段階を生徒自身で進められるようにする。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 美術科 第1学年〉

1. 美術科の目指す「わかる」から「できる」授業 知識と技術は制作の両輪である。「わかる」の上位が「できる」だとは限らず、「できる」が先にきて、後から理由付けできて「わかる」になることもある。「わかる」が知識的なものであると考えると、「できる」は技術的なものであると考えられる。知識的なことをスタートとし、一度やってみる。やってみた経験の上に、もう一度知識的な裏付けができ、それを制作につなげることで、知識と技術の関連付けを行う。「わかる」と「できる」が交互に繰り返され、そのつながりが「使える」になるような授業展開を考える。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・きちんと話を聞き、ちゃんとしていている生徒が多い。 〈考査(テスト)分析〉 ・学習の形跡が感じられる生徒が多い。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・テストも制作も、がんばろうという気持ちが感じられる。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 実施せず 〈学力調査〉 実施せず ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について 時間をかけると良い作品はできる。考えて工夫をすることもできる。しかし、与えられた時間の中で完成させていくことも必要である。生徒によって、作業にかかる時間に幅があるのが現実で、その放課後等のフォローの在り方を考える。また、授業時間を有効に使うということも、大前提として考えていく。	
5. 授業改善策 (1)テストで点数を取ることができないことを気にしている生徒が多い。きちんと学習したら点数がとれるよう、授業できちんと指導する。 (2)きちんとしていている生徒が多いので、これから自分で考え決定していく課題になると、迷いが生まれてくることも考えられる。基礎的な課題の時点で、自ら考えて決定していく指導を心がける。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 保健体育科 第1学年〉

1. 保健体育科の目指す「わかる」から「できる」授業 体育の授業では、頭で「わかる」だけでなく、自身のからだで「できる」ことが大変重要となる。しかしながら、体力の実態に個人差があることは事実であるため、個々の生徒やグループの実態に応じた課題を設定し、それぞれが課題解決の経験を多くすることで「できた」という成功体験を積み重ねる授業を展開していく。また、その中で互いに認め合う機会を多くすることが必要となる。 保健の授業では、「わかる」だけでなく、行動・実践に移すことが必要となるため、実際の自分の生活などと照らし合わせるなど、自らの生活と関連づける授業を展開していく。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・身体を動かすことへの抵抗や、苦手意識は高くなく、どの生徒も積極的に身体を動かすことができる。 〈考查(テスト)分析〉 ・定期テストの結果からは、授業で触れた知識がきちんと習得されていることがうかがえる 〈児童生徒の自己評価から〉 ・定期テスト前に集中して学習する生徒が多いため、継続して学習することができていない生徒が多く見られる。	3. 体力テストの結果について ・男子はどの項目も都と全国の記録を上回っていた。しかし、身長や体重などの体格は都や全国を大幅に下回っていた。 ・女子は立ち幅跳びで全国の平均を若干下回っていたため、跳躍系の補強運動や瞬発力を高めるような運動を多く取り入れるようにする。 ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について 体力値は、都や全国の平均値と比べても高い数値を示しており、運動に対しての意欲も高い。 球技や、陸上競技など、特定の単元に特化した技術や体力を習得している生徒が多いため、体育の授業の中で、幅広い分野の運動領域を経験させることで、様々な技術や体力を向上させていく必要がある。	
5. 授業改善策 (1)生徒に応じた課題を設定し、課題解決の経験を多くする。 (2)グループ活動など、関わり合いの中での学習活動を多くしたり、ICT 機器を活用したりすることで自他の運動を客観的に評価させる。 (3)授業の単位ごとに、関連して高まる体力を解説し、その体力を意識して授業に取り組めるようにしていく。 (4)1年生女子は立ち幅跳びが全国平均を下回っていたので、跳躍系の補強運動を入れていく。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 技術科 第1学年〉

1. 技術科の目指す「わかる」から「できる」授業 ・知識で終わることなく、実践し、改善していくことをする授業を行う。 ・自分で考え工夫していくことができる授業を行う。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・好奇心を持って授業に取り組み、製作に積極的を行っている。 ・のこぎりなど工具の使用に慣れていない。 〈考査(テスト)分析〉 ・知識や理論について理解が難しい。 ・工具の知識が少ない。 〈児童生徒の自己評価から〉 楽しく授業を受けることができているが、知識や理論について興味関心が低い。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 実施せず 〈学力調査〉 実施せず ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について 知識や理論について授業を始め、少しでも難解な箇所があると、興味関心が低くなり、理解度が落ちる。 今までの生活の中で、工具に触れる機会がなかった生徒が多い。	
5. 授業改善策 (1)興味関心が高まる教材と関連のある話題を準備する。 (2)動画やアニメーションを用いて、わかりやすい教材を準備する。 (3)知識や理論が実際にどのように役立っているか実例を用いて説明する。 (4)技能習得の練習の時間を設ける。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 家庭科 第1学年〉

1. 家庭科の目指す「わかる」から「できる」授業 ・家庭実践を通して知識・技能の定着をさせる授業 家庭科は、生活に直結する教科であるため、学習した知識や考え方を、生活の中で実践することが、定着に繋がると考える。そのため、家庭実践の機会を多く設けていく。 ・考えを表現する機会を多く設けた授業 「家族・家庭生活」「心地よい住まい方」「布を用いた製作」等、答えのない課題について自らの考えに自信をもって表現できるように、意見を発信する機会を多く設けていく。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・日常生活と照らし合わせながら、基礎・基本の知識を理解できている。 ・他者の意見に、共感したり問い返しをしたりする等の深い話し合いができていない。 〈考査(テスト)分析〉 ・基礎をもとにして自分の考えを新しく作り上げることを苦手としている生徒が多い。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・日常生活の中の課題を見出すことを苦手とする生徒が多い。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 実施せず 〈学力調査〉 実施せず ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について ・班の話し合いでは、自分の意見を発信するだけ等、深い意見交換ができていない。 ・日常生活の中の課題を見出すことを苦手としている。 ・基礎・基本から新しいことを創造することや課題の解決策などを考える力が低い。	
5. 授業改善策 (1)他者の意見への共感や質問の仕方など、話し合いを深める手法について、助言していく。 (2)課題発見をする学習を苦手とする生徒には、いくつかの例や見本を見せて考えのヒントにさせる。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)

〈授業改善推進プラン 英語科 第1学年〉

1. 英語科の目指す「わかる」から「できる」授業 ・英語を使えるようになることを目的として授業を構築している。教科書の内容に関連した資料だけでなく、日常的な話題にも触れ、視座を養いつつ、多様な切り口を提供し、興味をもって学習に臨めるようにしている。 ・応用的な学習ばかりでなく、基礎的な学習も取り入れ、フォニックスや音読を始め、基礎的な文法事項も定期的に扱いながら、らせん状に英語力を培っていきたい。	
2. 日常の学習状況について 〈授業観察〉 ・自分の意見をもっているが、発言自体を行うことを苦手としている。 〈考査(テスト)分析〉 ・ほぼすべての生徒が試験範囲を理解し、取り組むことができていたが、読み書きそのものを苦手とする生徒もいる。 〈児童生徒の自己評価から〉 ・読字や書字に苦手意識のある生徒は、英語を難しいと捉える傾向にある。	3. 村学力調査の結果について 〈学習行動〉 概ね英語の学習に対しては抵抗感がなく、学校の授業についても理解できている。 〈学力調査〉 ○聞くこと ○読むこと ○書くこと ○…目標値を下回っている内容 ☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容
4. 学習の課題について 「英語を使って何かをする」といった活動を行う際に、フォニックスや音読などの聞くことや話すことに関わる基礎的な活動へのつまずきが見られる。また語彙や文法についても、数回程度の繰り返しで終わるのではなく、繰り返し学習する頻度を上げ、習得が求められる。	
5. 授業改善策 (1) 音読シートを用い、発音やイントネーションを確認した後で、適切に音読することができるかというテストを定期的に行う。また、生徒同士が相互に学び合える活動にする。 (2) 基礎的な文法事項の習得を確認できる小テストを、タブレットを用いて定期的に行う。 (3) 教員に対して質問できるようにオフィスアワーを設け、授業中に質問できなかったことも吸い上げられるようにする。	6. 成果と評価 (1) (2) (3)